２０２４年度　文学部聴講生

講義要項

（ドイツ語文学文化専攻抜粋）

中央大学　文学部

2024.4 - 2025.3

科目名: ドイツ文学史(1) **担当教員: 羽根 礼華**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 月3 配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C103

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:27 更新者: AA1541 更新日時: 2023-12-11 16:19:38

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

中世から現代までのドイツ語で書かれた文学の歴史を学びます。文学を取り巻く政治・社会・文化の状況にも目を配りつつ、それぞれの時代の文学の潮流と主要な作家・作品について解説します。文学作品の抜粋を講読し、作品に関連する音楽や映画なども随時取り上げます。

科目目的

この科目は、中世から現代にいたるまでのドイツ文学史の基礎知識を習得することを目的としています。

到達目標

・ドイツ文学史の展開についての基礎的な知識を身につけること。
・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を習得すること。
・ドイツ語文学に関連する音楽や映画などについての知識を広げること。

授業計画と内容

第1回：イントロダクション
第2回：中世の叙事詩：『トリスタン』『ニーベルンゲンの歌』
第3回：中世の抒情詩：ミンネザング
第4回：近世の文学①：人文主義、活版印刷術、ルターによる聖書のドイツ語訳
第5回：近世の文学②：マイスターザング、宗教劇、謝肉祭劇
第6回：十八世紀の市民劇
第7回：感傷主義、シュトゥルム・ウント・ドラング
第8回：ゲーテとシラー、ドイツ・ジャコバン派
第9回：ロマン主義とその周辺
第10回：三月前期の文学、リアリズム
第11回：自然主義、「世紀末」の文学
第12回：表現主義、ダダイズム、「新しい女」
第13回：ナチ時代の文学、1945年以降の文学
第14回：総括

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んだ上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 50% 授業で扱ったドイツ文学史についての基礎知識を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価します。

レポート 0%

平常点 50% 授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。

その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

manaba

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
柴田翔（編著）（2003）『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房　＊各自入手してください。

＊上記以外の文献は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく4回以上欠席した場合には、不合格とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

この科目は教職（ドイツ語）の必修科目です。

科目名: ドイツ文学史(2) **担当教員: 羽根 礼華**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 月3 配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C104

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:27 更新者: AA1541 更新日時: 2023-12-11 16:14:59

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

「ドイツ文学史（1）」で扱った中世から現代までのドイツ文学史の概要を踏まえつつ、ドイツ語文学作品を講読します。その際には、文学テクスト分析の方法についても併せて学びます。授業で主に取り上げるのは近現代の作品ですが、中世から近世までの文学・文化も近現代における受容という観点から適宜扱います。

科目目的

この科目は、作品の読解を通じてドイツ文学史の知識を深めると共に、文学テクスト分析についての基礎的な知識を身につけることを目的としています。

到達目標

・ドイツ文学史の展開についての知識を深めること。
・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を深めること。
・文学テクスト分析についての基礎的な知識を習得すること。

授業計画と内容

第1回：イントロダクション
第2回：ノヴァーリス『ハインリヒ・フォン・オフターディンゲン』／テクストとパラテクスト、小説の冒頭
第3回：トーマス・マン『ヴェネツィアに死す』／語り手、焦点化と焦点人物
第4回：イルゼ・アイヒンガー「鏡物語」／プロットとストーリー
第5回：インゲボルク・バッハマン『マリーナ』／時間、小説の結末
第6回：ヨーハン・ヴォルフガング・ゲーテ「トゥーレの王さま」／詩脚、詩行、詩節
第7回：ハインリヒ・ハイネ「ローレライ」／韻、終止形
第8回：小括
第9回：ゲオルク・トラークル 「グローデク」／修辞的文彩①：比喩
第10回：パウル・ツェラン「死のフーガ」／修辞的文彩②：その他
第11回：ゴットホルト・エフライム・レッシング『賢人ナータン』／場所、時間、筋
第12回：ハインリヒ・フォン・クライスト『ペンテジレーア』／戯曲の言語、戯曲のジャンル
第13回：ハイナー・ミュラー『ハムレットマシーン』／間テクスト性、アダプテーション
第14回：総括

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んだ上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	授業で扱ったドイツ文学と文学テクスト分析の方法についての基礎知識を理解し、ドイツ文学作品を論じることができるかどうかを評価します。
レポート	0%	

平常点　　50%　授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。
その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

manaba

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
柴田翔（編著）（2003）『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房　＊各自入手してください。

＊上記以外の文献は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく4回以上欠席した場合には、不合格とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

この科目は教職（ドイツ語）の必修科目です。

[1E0021C20101]

科目名: ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義 **担当教員: 藤縄 康弘**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金2 配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C201,LE-LG2-C2

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:36 更新者: AC7671 更新日時: 2024-01-05 17:10:44

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

言葉はコミュニケーションの手段であるとともに、歴史的・文化的遺産とも見なされる。この講義では、ドイツ語の根本的な仕組みを学習しながら、実用と教養の両方にバランスの取れた見識を養う。

科目目的

・ドイツ語の具体的な文法事象（そこには日本語にも英語にも見られないものがある）を歴史や文化との関連で体系的に把握する
・そうした体系性がいかにコミュニケーションに作用しているかを理解し、この認識を語学力の上達や異文化理解に生かす姿勢を身につける

到達目標

・CEFR B1 程度のドイツ語読解力を身につけている
・このレベルの読解力を支える文法事項について十分な説明が行える

授業計画と内容

1. 導入：ドイツ語の歴史的・国際的・地域的背景
2. 音韻（1）：母音、子音と音節
3. 音韻（2）：アクセント
4. 文法（1）：語形変化の特色
5. 文法（2）：品詞分類
6. 文法（3）：文の構造
7. 確認テスト 1、中間まとめ
8. 文法（4）：語順
9. 文法（5）：時制
10. 文法（6）：格
11. 文法（7）：態
12. 文法（8）：語彙と造語法
13. 名詞の性と数
14. 確認テスト 2、総まとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	既習事項の要点を抑えているかどうかを確認する。
期末試験	30%	授業での学習成果をもとに自らドイツ語のテクストを読解・分析し、その結果を適格な日本語で説明できるかどうかを確かめる。
レポート	0%	
平常点	40%	授業中の質問や発言、コメントシート、課題への取り組みなど。

通常の努力をもって受講しているかどうかを確認する。

その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

※欠席が開講回数の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

・履習にあたり、初級ドイツ語の文法知識や読解力は必要であるが、それ以上の専門的知識は要求しない。
・本授業は、後期開設の「ドイツ語学I (2)(4)：演習」の前提となる授業である。
・本授業に加えて、「ドイツ語学II(1)(3)：講義」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

担当教員の HP:
http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/fujinawa/

備考

この科目は教職（ドイツ語)の必修科目です。

科目名: ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義 **担当教員: 林 明子**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 水3 配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C203,LE-LG2-C2

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:36 更新者: AA0530 更新日時: 2024-01-09 17:07:39

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では、特に、広義の応用言語学（語用論・社会言語学・文章・談話の研究など）を中心に、言語研究の多様なアプローチとそこで用いられる基本的な概念・分析方法について、身近な具体例を通して学びます。今年度は語用論に関する事項を取り上げ、一部、演説テクストの分析など実例も紹介します。

「講義」科目ではありますが、受け身で話を聞いていても理解は深まりません。実際に言語を分析してみることが重要です。そこで、授業中の活動には、分析結果の共有と討議を取り入れるなど発表を通して、新しい知見を身に付けられるように、広がりを持たせた展開を試みます。

科目目的

言語学分野の基礎知識と多様な方法論を知ることによって、言語学はもちろん、文学・文化学・演劇学・歴史学・美術／芸術などの他分野にあっても、言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付けます。言語学分野を専門としようとする履修者にとっては、近い将来、自分自身で組み立てる調査、そのためのデータ収集・分析にあたって、自分の道具となってくれる専門用語や方法論を整理・発見する一助となります。

到達目標

「言語学」という学問分野で繰り広げられるアプローチの多様性を知り、基礎的な知識と「ことば」をめぐる様々な観点、研究方法を知ることを目標とします。然るべき方法論に則って、言語事実を客観的かつ正確に観察・分析するプロセスを学びます。それを通して言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付けます。

授業計画と内容

(1) オリエンテーション：言語研究の多様な方法論と語用論
(2) 隣接領域との関係：意味論的意味と語用論的意味
(3) 言語を用いた行為はどのように機能するか：命題と発話行為理論
(4) 直接発話行為と間接発話行為
(5) さまざまな区分・分類の仕方
(6) コンテクストとは何か：言語的コンテクスト／社会文化的コンテクスト
(7) コンテクスト化の合図（Contextualization cues）
(8) 指示語用論と指す語の体系としてのダイクシス
(9) 指示代名詞（指示冠詞）と人称指示：普遍性と個別性
(10) 人称指示に着目した研究例の紹介（ドイツ史に関わるドイツ語テクストの分析）
(11) 会話分析と語用論：Gesprächsanalyse（会話分析）とは
(12) 実際の会話分析で用いる概念・方法論：話者交替のルール、修正・修復、隣接応答ペア
(13) 外国語教育と語用論：言語能力・コミュニケーション能力・語用論的能力
(14) 総括

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、自分自身の分析に応用できるだけの能力を身につけたかどうかを評価の対象とします。
レポート	0%	
平常点	30%	授業中の活動や授業内容を受けて出す提出課題を通して、基礎的な知識や方法論を身に付けたかどうか、分析課題にどう取り組んだかを評価します。授業内の「小さな気づき」も重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

manabaのアンケート機能を用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進めます。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

＜参考文献＞
加藤重広、澤田淳編（2020）『はじめての語用論　－基礎から応用まで－』研究社
窪薗晴夫編著（2019）『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房
Bergmann, R.,Pauly, P., Stricker, S. (2005) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Vierte Auflagen. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.
Bergmann, R.,Pauly, P., Stricker, S. (2010) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Fünfte Auflagen. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.

＜辞典／事典類＞
＊専門の辞典類は、専門用語を中心に予・復習の役に立ちます。
亀井孝他編著（1996）『言語学大辞典　第６巻　術語編』三省堂
小池生夫編集主幹（2003）『応用言語学事典』研究社
斎藤純男・田口義久・西村義樹編（2015）『明解言語学辞典』三省堂
ドイツ言語学辞典編集委員会編（編集主幹：川島淳夫）（1994）『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店

＊その他、参考文献は授業の中で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

連絡方法：オフィスアワーを含め、まずはmanabaまたはメールでご連絡ください。メールアドレスは、授業開始後、履修者にお知らせします。

参考URL

備考

[1E0021C50101]

科目名: 現代ドイツ事情(1)／現代ドイツ事情(1)(3) **担当教員: 紀 愛子**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金2 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C501

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:36 更新者: AD1420 更新日時: 2024-01-08 12:45:36

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、ナチ時代の負の過去に対して戦後ドイツがどのように向き合ってきたのかという、いわゆる「過去の克服」の問題について、特に①戦後裁判、②戦後補償、この２つの観点から検討する。
第二次世界大戦敗戦後、ドイツが国際社会に復帰し、諸外国との外交関係を回復していくにあたっては、ナチ時代の犯罪に対する対応が不可欠であった。現在のドイツを取り巻く国際関係を考える上でも、「過去の克服」の具体的な展開を知ることは重要な手助けとなる。
本講義では特に、ナチ犯罪に関わった者たちをどのように裁くかという戦後裁判の問題、犯罪の犠牲者たちが被った被害をどのように償うかという戦後補償の問題に焦点を当て、「過去の克服」の一側面を提示するとともに、国家犯罪をめぐる「責任」や「償い」の問題について考えたい。

科目目的

ナチ犯罪をめぐる裁判や戦後補償など、「過去の克服」についての知識を得る。
講義を通して、ナチズムの過去や戦後ドイツ史、「過去の克服」に関心のある人に、卒業論文のテーマを見つける手がかりを提示したい。

到達目標

戦後のドイツにおいて、ナチ・ドイツの過去とそれに対する取り組みがどのような重要性を持っているのかを理解する。
戦後ドイツ史についての基礎知識を身につける。

授業計画と内容

第1回：オリエンテーション
第2回：ナチ時代の差別と迫害①：ナチの独裁体制とホロコースト
第3回：ナチ時代の差別と迫害②：ホロコースト以外のナチ犯罪
第4回：「非ナチ化」政策
第5回：ナチ犯罪をめぐる戦後裁判―導入、ニュルンベルク裁判
第6回：アイヒマン裁判とアウシュビッツ裁判
第7回：戦後裁判のまとめと次回映画の導入
第8回：映像で考えるナチ犯罪の裁き①：裁判に関する映画視聴（前半）
第9回：映像で考えるナチ犯罪の裁き②：裁判に関する映画視聴（後半）と考察
第10回：ドイツの戦後補償①　ユダヤ人に対する補償
第11回：ドイツの戦後補償②　強制労働被害者、シンティ・ロマへの補償
第12回：ドイツの戦後補償③　強制断種被害者、「安楽死」犠牲者遺族への補償 ＆ 戦後補償のまとめ
第13回：東ドイツとナチズムの過去
第14回：まとめと理解度の確認

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回、授業内容に関する参考文献を示すため、自身が特に興味関心を持った内容については積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。この学修が、期末レポート執筆の基礎となる。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、③主体的・積極的に学びを深めたかどうか、この三点からレポート内容を評価する。
平常点	40%	毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

原則として、14回の授業のうち、10回以上出席することを、成績評価の前提条件として求める。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
✔ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト（教科書）は使用しない。
参考文献は授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 現代ドイツ事情(2)／現代ドイツ事情(2)(4) **担当教員: 紀 愛子**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 金2 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C502

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:37 更新者: AD1420 更新日時: 2024-01-08 12:41:25

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、ホロコーストという過去が戦後ドイツにおいてどのように認識され、その記憶が継承されてきたのかを検討する。
現在のドイツでは、ホロコーストに関する歴史教育や、犠牲者のための追悼記念碑建設などが積極的に行われている。ナチ時代の負の歴史に関するこうした取り組みは、ドイツでは「想起の文化」と呼ばれる。本講義では「想起の文化」の中でも特に、①歴史教育、②歴史研究、③記念碑・記念館の建設事業、この三つに焦点を当てて、ホロコーストの記憶継承のためにどのような営みが行われているのかを検討する。

科目目的

ホロコーストをめぐる歴史教育や歴史研究、記念碑・記念館事業の具体的な展開についての知識を得る。講義を通して、ホロコースト認識や歴史教育、負の記憶の継承といったテーマに関心がある人に、卒業論文のテーマを見つける手がかりを提示したい。

到達目標

ドイツの「想起の文化」を理解する。そこからさらに発展して、自国の負の歴史と向き合うとはどのようなことか、そこにはどのような障壁や課題があるのかを、ドイツのケースを一つの事例としながら考察できるようになることが目標である。

授業計画と内容

第1回：オリエンテーション
第2回：ホロコーストとは
第3回：ナチ政権下のドイツ国民
第4回：ホロコーストをめぐる歴史教育
第5回：国際教科書対話
第6回：ホロコースト研究の展開と歴史修正主義
第7回：修正主義を考える①：映像で考える修正主義（前半）
第8回：修正主義を考える②：映像で考える修正主義（後半）
第9回：ホロコーストの表象―映画、芸術
第10回：東ドイツの記憶と想起
第11回：ドイツにおける記念碑の発展
第12回：ホロコーストをめぐる記念碑
第13回：ユダヤ人以外の犠牲者のための記念碑
第14回：まとめと理解度の確認―「想起の文化」を改めて考える

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業で参考文献を提示するので、特に関心を持ったテーマについては、積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。この学修が、期末レポート執筆の基礎となる。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。

・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業内容からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、③積極的・主体的に学びを深めているか、この三点からレポートを評価する。
平常点	40%	毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

原則として、14回の授業のうち、10回以上出席することを、成績評価の前提条件として求める。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
✔ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト（教科書）は使用しない。
参考文献は授業のなかで適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021C50301]

科目名: ドイツ社会誌(1)(3) **担当教員: 磯部 裕幸**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金3 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C503,LE-DT1-C5

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:38 更新者: AA2034 更新日時: 2024-01-05 18:55:12

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

授業テーマ:「マージナル・ヒストリー? ドイツ植民地の歴史を考える」
本授業では、ドイツ植民地の歴史を扱いながら、基本となる事実関係を確認するとともに、ドイツにとって「コロニアルなもの」がいかなる意味を持ってきたのかについて考察するものである。1871年に国家統一を成し遂げたドイツは、1880年代半ばにイギリスやフランスに大幅に遅れを取る形で、アジア・オセアニア・アフリカにおける植民地統治に乗り出す。しかし第一次世界大戦に敗れると、ヴェルサイユ条約の規定により、その海外領土のすべてを失った。かつて、こうした植民地支配はドイツ史における「些末なエピソード」として扱われ、あまり歴史家の関心を引かなかった。
しかし近年、短命に終わった植民地統治の歴史が新たな脚光を浴びている。それはいかなる理由からであろうか。授業では、そうした研究動向を紹介し、歴史家の関心対象を明らかにした上で、「植民地」にドイツ(人)がどのように関わってきたのか、またそうした「植民地経験」が、その後のドイツの歴史にどのような影響を与えたのかについて考えていく。それを通じて我々は、「ドイツ人」というアイデンティティーの重要な部分が、アフリカという「他者」との遭遇を通じて形成されたことを知るであろう

科目目的

本科目の目的は、ドイツの植民地統治の歴史を概観しながら主にドイツとアフリカとの関係を整理し、ドイツ(人)にとって非ヨーロッパという「他者」がどのような意味を持っていたのかについて考察を深めることにある。人文・社会科学の研究において、対象地域を歴史的に理解することは、どのような分野であれ必須である。従って本科目の履修は、将来卒業論文や卒業研究を執筆するにあたって有益な視座を与えてくれるに違いない。

到達目標

本科目では、主に歴史学研究の手法や方法論を学び、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

授業予定
(変更の可能性あり)
第1回 導入「植民地」とは何か?/近年のドイツ植民地研究をめぐる動向
第2回 「日の当たる場所」? ビスマルク/ヴィルヘルム2世と植民地問題
第3回 植民地における「鉄血政策」:初期の征服戦争
第4回 「武断政治」の破綻(1):南西アフリカにおける「ヘレロ・ナマ戦争」(1904-07)
第5回 「武断政治」の破綻(2):東アフリカにおける「マジマジ反乱」(1905-08)
第6回 「合理的植民地統治」を目指して:「デルンブルク時代」のはじまりとその限界
第7回 アフリカにおける人種主義(1):「異人種間婚姻」の禁止
第8回 アフリカにおける人種主義(2):人類学者・医学者の「植民地経験」
第9回 第1次世界大戦の勃発とドイツ植民地
第10回 国際連盟と「委任統治」:「植民地修正主義」の戦い
第11回 「植民地なき植民地主義」:戦間期ドイツにおける「熱帯病」研究
第12回 ヒトラーにとっての「植民地」:「マダガスカル計画」と「東部総合計画」
第13回 アフリカ版「過去の克服」? 戦後(西)ドイツと植民地の記憶をめぐって
第14回 まとめ・到達度確認

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	100%	出席は取らない。期末試験（到達度確認）の成績のみで評価する。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。

（参考文献）
永原陽子（編）『植民地責任論―脱植民地化の比較史』（青木書店、2009年）
Horst Gründer, Geschichte der deutschen Kolonien, München 2007
Sebastian Conrad, Deutsche Kolonialgeschichte, München 2007
マクニール『疫病と世界史（上・下）』（中公文庫、2007年）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021C50401]

科目名: ドイツ社会誌(2)(4) **担当教員: 磯部 裕幸**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 金3 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C504,LE-DT1-C5

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:38 更新者: AA2034 更新日時: 2024-01-09 15:07:44

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

授業テーマ:「近代ドイツにおける『科学的』人種主義の歴史」
近代の医学や生物学の急速な発展は、人間の「カテゴリー」に関する認識にも大きな変化をもたらした。 そこでは「人種」という概念が、しばしば「科学的客観性」の名のもとに実体化され正当化された。これがどのような恐ろしい帰結をもたらすかは、「ホロコースト」の歴史を紐解けば明らかであろう。
それではこうした「人種主義」はいつ、どのようにして生まれ、また戦前ドイツのいかなる社会的状況下で「政策」として取り込まれていくのか。本講義ではドイツにおける「人種主義」イデオロギーを科学的に支えた諸学問(生物学や医学、さらには「人種衛生学」など)の成立過程や内在する論理、さらに政治権力との関わりなどを追いながら、この問題を考えていきたい。その知見は、偏狭な排外主義が横行しつつある現代においても有益な示唆を与えてくれるだろう。

科目目的

本講義では、科学的な「人種主義」とはどういうもので、それが前近代から続く「人種主義」とどのように異なるのかを理解し、あわせてそれがナチズムの主張とどのように重なり合うのかを考えることを目的とする。さらにはそうした「人種主義」の論理が、「ホロコースト」のような事象と直接結びつくのかどうか、という点に関しても考察を深めていきたい。
人文・社会科学の研究において、対象地域を歴史的に理解することは、どのような分野であれ必須である。従って本科目の履修は、将来卒業論文や卒業研究を執筆するにあたって有益な視座を与えてくれるだろう。

到達目標

本科目では、主にドイツ近現代史を学ぶことによって、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

授業予定
(変更の可能性あり)
第1回 導入「ダーウィン以前」の人種主義(1):宗教と人種
第2回 導入:「ダーウィン以前」の人種主義(2)啓蒙思想と人種主義
第3回 20世紀の人種主義(1):近代医学と人種衛生学の成立
第4回 20世紀の人種主義(2):人種論的反ユダヤ主義
第5回 戦争による「淘汰」? 第一次世界大戦と人種主義ヒトラーの人種論
第6回 人種主義とナチズム(1):ナチ「権力掌握」後の人種主義立法
第7回 人種主義とナチズム(2):人種衛生学・遺伝優生学研究の制度化
第8回 政策となった人種主義(1):ユダヤ人に対する迫害
第9回 政策となった人種主義(2):シンティ・ロマに対する迫害
第10回 人種主義の暴走(1):「遺伝的障害者」への迫害/「T4作戦」の開始と中止
第11回 人種主義の暴走(2):「絶滅収容所」と遺伝優生学
第12回 医学の責任:「ニュルンベルク裁判」における医師たち
第13回 「人種なき人種主義」? 今日におけるレイシズム言説について
第14回 まとめ・到達度確認

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	100%	出席は取らない。期末試験（到達度確認）の成績のみで評価する
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に定めない。授業用プリントを配布する。適宜授業にて参考文献を紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021C50701]

科目名: ドイツ文学講義(1)(3) **担当教員: 田中 一嘉**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 火5 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C507,LE-LT1-C50

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:38 更新者: AC9346 更新日時: 2024-01-06 03:18:00

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、ドイツ語圏に限らず、広くヨーロッパ地域の様々な時代における文学作品や哲学的著作に見られる恋愛観の特質を探っていきます。
恋愛は、時代や地域の文化的条件によって様々にかたちを変えて語られています。
その一方で、どの時代・文化圏にも共通する普遍的な要素も見られるかもしれません。
本講義では、この二つの視点からさまざまに語られた恋愛について分析していきます。
適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

第1回：オリエンテーション
第2回：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』（1）近世ヨーロッパ世界と文学
第3回：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』（2）情熱恋愛？
第4回：ジェイン・オースティン『自負と偏見』
第5回：スタンダール『恋愛論』
第6回：中世の「宮廷風恋愛」概論（1）アンドレアス・カペルラヌス『宮廷風恋愛について』
第7回：中世の「宮廷風恋愛」概論（2）『バラ物語』
第8回：中世の「宮廷風恋愛」概論（3）ミンネザング
第9回：ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク『トリスタンとイゾルデ』
第10回：クレチアン・ド・トロワ『ランスロ』
第11回：エロスとクピドー：ウェルギリウス『アエネーイス』
第12回：オウィディウス『恋愛の技術（アルス・アマトリア）』
第13回：プラトン『饗宴』、『パイドロス』
第14回：総括

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめてもらいますので、随時テクストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%
期末試験 0%
レポート 50% 期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。

平常点　　50%　毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。
授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを評価基準とします。

その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジュメや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

[1E0021C50801]

科目名: ドイツ文学講義(2)(4) **担当教員: 田中 一嘉**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 火5 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C508,LE-LT1-C51

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:39 更新者: AC9346 更新日時: 2024-01-06 03:27:26

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、ドイツ語圏に限らず、広くヨーロッパ地域の様座な時代における文学作品に描かれる脇役の役割や意味について考えます。
脇役にはヒロイン、敵役、従者、助言者、仲間・友人など多様な人物が想定されます。彼ら脇役と主人公との間に形成される人間関係や、独立した意義など様々な視点から人物分析をしていきます。
適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

第１回：オリエンテーション
第２回：古代ギリシア文学より：ホメロス『イーリアス』神々の介入？代理戦争？
第３回：古代ローマ文学より：ウェルギリウス：『アエネーイス』パラスの死
第４回：ゲルマン神話：ロキ／トリックスターという特性
第５回：『ニーベルンゲンの歌』①クリエムヒルト
第６回：『ニーベルンゲンの歌』②ハゲネ
第７回：アーサー王関連物語①『イーヴェイン』の獅子
第８回：アーサー王関連物語②内膳頭ケイイ
第９回：アーサー王関連物語③侍女・従者
第１０回：アーサー王関連物語④アーサーの甥ガヴェイン
第１１回：ファウスト伝説：悪魔メフィストフェレスという存在
第１２回：ゲーテ『若きウェルテルの悩み』手紙の相手ヴィルヘルム
第１３回：シラー『オルレアンの乙女』黒騎士
第１４回：総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

前回授業の内容を復習して、授業全体の流れを確認してください。
また、期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめてもらいますので、随時テクストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%
期末試験 0%
レポート 50% 期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。

平常点　　50%　毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。
授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを判断基準とします。

その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジュメや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

[1E0021C51101]

科目名: ドイツ思想(1)／ドイツ思想史(1) **担当教員: 縄田 雄二**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 月2 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C511

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:39 更新者: AA9825 更新日時: 2024-01-08 11:35:22

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ドイツが生んだ思想の重要なものに、文化史の記述がある。この講義では、そうした思想のいくつかを論じ、それらを批判的に参照しつつ、それでは現代においていかなる文化史記述が可能かを示す。文化の領域は広いが、対象は言語文化にほぼ限定する。前期・後期を通じて通史の古代から現代までの叙述を試みるが、前期のみ、後期のみ履修しても理解できるように配慮する。

ドイツ思想のみを論ずるのではなく、ドイツ思想を手掛かりとして文化史を叙述する授業である。この点を承知した上で履修していただきたい。

科目目的

・ドイツ思想の重要な部分（文化史）を知る。
・世界の言語文化の歴史についての概観を得る。

到達目標

・思想を載せた文章を読み慣れる。
・世界の言語文化史から生まれた古典の数々への糸口を得る。
たくさん本が読めるようになることを目指す授業である。

授業計画と内容

1. 理論的基盤（1）Kittler: Eine Kulturgeschichte der Kulturwissenschaft
2. 理論的基盤（2）Kittler: Geschichte der Kommunikationsmedien
3. 理論的基盤（3）Luhmann: Die Gesellschaft der Gesellschaft
4. ヘルダーを手がかりに（1）自然史・気象史、古生物学
5. ヘルダーを手がかりに（2）音声言語と身振り言語
6. ヘルダーを手がかりに（3）神話学
7. ヘルダーを手がかりに（4）性と死の神話
8. ヘルダーを手がかりに（5）洪水神話
9. ヤスパースを手がかりに（1）枢軸時代論
10. ヤスパースを手がかりに（2）古代の韻文
11. ヤスパースを手がかりに（3）古代の碑文
12. ヤスパースを手がかりに（4）古代の「死者の書」
13. ヤスパースを手がかりに（5）古代における歴史記述
14. 総括と到達度確認

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

manabaにアップロードした資料や自分でとったノートを授業後に読み返し、理解を深めていただきたい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験　50%　学期末に試験をおこない、学期全体の授業にしっかりと取り組めたかを評価する。
レポート　0%
平常点　50%　responなどにより、その回ごとの授業にしっかりと取り組めたかを簡単に評価する。
その他　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

✔ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

購入しなければならない文献は無い。講義をおこなうに際し講師が参照した文献は、その都度紹介するので、興味が湧けば読んでいただきたい。

オフィスアワー

その他特記事項

・授業中に教員と学生がコミュニケーションできる無料アプリresponを用いる。manaba経由でスマートフォンにダウンロードしておいていただきたい。
・質問は以下いずれの方法でもよろこんで受けつける。（１）授業中手を挙げる　（２）授業のおわりにresponでコメントを寄せる際に書き込む　（３）manabaの個人指導コレクションを用いる
・遅刻・欠席については、公式の書類があるものについてのみ考慮を保証する。

参考URL

備考

[1E0021C51201]

科目名: ドイツ思想(2)／ドイツ思想史(2) **担当教員: 縄田 雄二**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 月2 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C512

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:39 更新者: AA9825 更新日時: 2024-01-08 12:07:34

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ドイツが生んだ思想の重要なものに、文化史の記述がある。この講義では、そうした思想のいくつかを論じ、それらを批判的に参照しつつ、それでは現代においていかなる文化史記述が可能かを示す。文化の領域は広いが、対象は言語文化にほぼ限定する。前期・後期を通じて通史の古代から現代までの叙述を試みるが、前期のみ、後期のみ履修しても理解できるように配慮する。

ドイツ思想のみを論ずるのではなく、ドイツ思想を手掛かりとして文化史を叙述する授業である。この点を承知した上で履修していただきたい。

科目目的

・ドイツ思想の重要な部分（文化史）を知る。
・世界の言語文化の歴史についての概観を得る。

到達目標

・思想を載せた文章を読み慣れる。
・世界の言語文化史から生まれた古典の数々への糸口を得る。
たくさん本が読めるようになることを目指す授業である。

授業計画と内容

1. キットラー、ルーマンを手がかりとして（１）理論的基盤
2. キットラー、ルーマンを手がかりとして（２）弦楽器の伝播と文学
3. キットラー、ルーマンを手がかりとして（３）人文主義
4. キットラー、ルーマンを手がかりとして（４）宗教改革
5. キットラー、ルーマンを手がかりとして（５）戯曲改革
6. キットラー、ルーマンを手がかりとして（６）近代読者の発生、版画と言語文化
7. キットラー、ルーマンを手がかりとして（７）書かれたものを集成するということ
8. キットラー、ルーマンを手がかりとして（８）文献学
9. キットラー、ルーマンを手がかりとして（９）連載小説
10. キットラー、ルーマンを手がかりとして（１０）録音される言語文化
11. キットラー、ルーマンを手がかりとして（１１）ラジオドラマ
12. キットラー、ルーマンを手がかりとして（１２）シナリオ小説
13. キットラー、ルーマンを手がかりとして（１３）人類の言語文化遺産のデジタル化
14. 総括と到達度確認

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

manabaにアップロードした資料や自分でとったノートを授業後に読み返し、理解を深めていただきたい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%
期末試験 50% 学期末に試験をおこない、学期全体の授業にしっかりと取り組めたかを評価する。

レポート　　0%
平常点　　50%　responなどにより、その回ごとの授業にしっかりと取り組めたかを簡単に評価する。
その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

✔ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

購入しなければならない文献は無い。講義をおこなうに際し講師が参照した文献は、その都度紹介するので、興味が湧けば読んでいただきたい。

オフィスアワー

その他特記事項

・授業中に教員と学生がコミュニケーションできる無料アプリresponを用いる。manaba経由でスマートフォンにダウンロードしておいていただきたい。
・質問は以下いずれの方法でもよろこんで受けつける。（１）授業中手を挙げる　（２）授業のおわりにresponでコメントを寄せる際に書き込む　（３）manabaの個人指導コレクションを用いる
・遅刻・欠席については、公式の書類があるものについてのみ考慮を保証する。

参考URL

備考

[1E0021C51301]

科目名: ドイツ文化講義(1)(3)／ドイツ文化講義(1)(3)(5) **担当教員: 高橋 慎也**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 月4 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C513,LE-DT1-C5

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:40 更新者: AA9015 更新日時: 2024-01-10 22:22:14

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

日本とドイツ語圏・欧米の舞台作品の比較分析①
同じ戯曲の舞台作品であっても演出家によって、演出意図や表現方法は異なります。シェイクスピア作『ハムレット』の場合、ローレンス・オリヴィエや蜷川幸雄は英雄ハムレットの悲劇ないし鎮魂劇として演出しています。それに対しハイナー・ミュラーやトーマス・オスターマイアーはハムレットを欠点の多い現代風の若者として批判的に演出しています。ウィーン・ミュージカル『エリザベート』や『モーツァルト』の場合、ウィーン版は異化効果を用いながら、観客が主人公を批判的に検討するように誘う演出をしています。それに対し小池修一郎は主人公の「愛の死」（Liebestod）の成就として、観客の感情移入を誘うように演出しています。この授業では演出家によるこうした相違を踏まえて、舞台作品を比較分析し解説してゆきます。
一般的に言えば、ドイツ・ヨーロッパの演出家による舞台作品には社会批判的要素が多く表現されています。他方、日本の演出家の舞台作品の中には舞台空間を「霊の住む空間」として、消えてゆく音やノイズを霊の声として、さらに舞台作品を死者への哀悼・鎮魂の供儀として提示する側面があります。こうした演出意図と演出法の相違を生む背景としては、演出家や観客の演劇観に留まらず、宗教観や死生観が関係していると捉えることができます。本授業では何名かの演出家の演劇観、宗教観についても解説します。
本授業ではまた「カタルシス」、「異化効果」、「ドラマ演劇」、「ポストドラマ演劇」、「パフォーマンス性」といった演劇学の基本概念についても解説します。

科目目的

○ ドイツ語圏の舞台芸術の演出法に関する基礎的知識を修得する
○ ドイツ演劇学の基礎的概念を修得する
○ 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違について考察を深める

到達目標

○ ドイツ語圏の舞台芸術の演出法に関するレポートを執筆できる
○ ドイツ演劇学の基礎的概念に関するレポートを執筆できる
○ 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違についてレポートを執筆できる

授業計画と内容

1) 授業紹介と舞台作品紹介
2) シェイクスピア『ハムレット』：ローレンス・オリヴィエ、蜷川幸雄の演出分析
3) シェイクスピア『ハムレット』：ハイナー・ミュラー、トーマス・オスターマイアーの演出分析
4) 野田秀樹の『ハムレット』翻案劇「The Bee」の演出分析
5) ブレヒト『三文オペラ』：白井晃、ウルリッヒ・ヴァラーの演出分析
6) ブレヒト『三文オペラ』：その他のドイツ人演出家の演出分析
7) 演劇学の基本概念①：「カタルシス」、「異化効果」、「心理主義劇リアリズム演劇」、「叙事的演劇」他の解説
8) ミュージカル『モーツァルト』：ハリー・クプファーのウィーン版の演出分析
9) ミュージカル『モーツァルト』：小池修一郎の東宝版の演出分析
10) これまでの授業の補足説明
11) カフカ『変身』：スティーブン・バーコフ演出、森山未來主演の演出分析
12) カフカ『変身』：スティーブン・バーコフ演出、宮本亜門主演の演出分析
13) 演出分析と上演分析の理論と方法、観客論
14) 授業全体のまとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	50%	設問に対応した解答の達成度
レポート	30%	ショートレポートの課題に対する記述内容の充実度
平常点	20%	授業課題全体に対する授業態度
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
本授業で取り上げる戯曲、上演ビデオ、脚本、演出家インタビュー、劇評などの教材はGoole Driveから視聴可能とする。印刷教材は著作権の許す範囲でダウンロード可とする。
参考文献：
1）ハンス＝ティース・レーマン著『ポストドラマ演劇』　同学社
2）エリカ・フィッシャー＝リヒテ著：『演劇学へのいざない』　国書刊行会

オフィスアワー

その他特記事項

4回以上欠席した場合の成績は不可となります。

参考URL

備考

[1E0021C51401]

科目名: ドイツ文化講義(2)(4)／ドイツ文化講義(2)(4)(6) **担当教員: 高橋 慎也**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 月4 配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C514,LE-DT1-C5

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:41 更新者: AA9015 更新日時: 2024-01-10 22:25:08

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

前期に引き続き、日本とドイツ語圏・欧米の著名な演出家・振付家による舞台作品のシーン分析を通して、それぞれの演出法の特徴について解説します。後期の授業ではオペラ『松風』、『静かな海』、『トリスタンとイゾルデ』、音楽劇『Mea Culpa（私の贖罪）』を例として、オペラと音楽劇の演出方法について解説します。これらの舞台はすべて、愛と死の関係を主題としています。愛の成就を死の中に見出す「愛の死（Liebestod）」とは、ワーグナーが自身の楽劇『トリスタンとイゾルデ』で表現した愛の完成形です。この「愛の死」を肯定的に捉えるのではなく、超越すべき理念として批判的に提示する演出についても解説します。

オペラ『松風』は世阿弥の能楽版を原作とするドイツ語オペラです。作曲は細川俊夫、振付はサシャ・ヴァルツ、舞台美術は塩田千春です。ヴァルツは現代ドイツのタンツテアターの代表的な振付家です。オペラ『松風』は台本、音楽、ダンス、美術が統合された総合芸術作品となっています。このオペラでは原作とは異なり、ダンサーの一人が神道の巫女として登場しています。また原作の特徴である鎮魂だけでなく、女性差別に対する批判も盛り込まれています。このオペラは2012年の初演の後にも再演されており、国内外の劇評は総じて肯定的です。

オペラ『静かな海』の脚本は観世元雅作『隅田川』と森鴎外『舞姫』を原作として作られ、東日本大震災と福島原発事故の犠牲者の鎮魂劇となっています。作曲は細川俊夫、脚本と演出は平田オリザ、舞台美術は杉山 至が担当しています。このオペラは2015年の初演後は再演されないままで、演出に対する劇評はやや否定的です。

ワーグナー作曲・ミュラー演出『トリスタンとイゾルデ』は1993年の初演当時に賛否両論に晒されました。「愛の死」を歌い上げた後のイゾルデの演出が実に大胆なものだったからです。シュリンゲンジーフ演出の『Mea Culpa（私の贖罪）』では「愛の死」を歌う歌手に独創的な変更を加えています。ミュラー、シュリンゲンジーフ共に、ワーグナーの創作意図を批判的に継承していると捉えることができます。

このように同じ作品であっても演出家によってその演出意図と表現方法は大きくことなります。その背景にはそれぞれの歴史観、世界観、さらには死生観の相違があります。この授業ではこれらの相違点についても解説していきます。

科目目的

○ ドイツ語圏の舞台芸術の上演史に関する基礎的知識を修得する
○ ドイツ演劇学の基礎的概念を修得する
○ 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違について考察を深める

到達目標

○ ドイツ語圏の舞台芸術の演出法に関するレポートを執筆できる
○ ドイツ演劇学の基礎的概念に関するレポートを執筆できる
○ 日本とドイツ語圏の演劇観の相違、演出コンセプトの相違についてレポートを執筆できる

授業計画と内容

1) 授業紹介と教材作品紹介
2) 世阿弥作・サシャ・ヴァルツ振付オペラ『松風』：脚本分析、振付分析
3) 世阿弥作・サシャ・ヴァルツ振付オペラ『松風』：舞台装置分析、劇評分析
4) 世阿弥作『松風』能楽版の舞台分析
5) 平田オリザ作・演出オペラ『静かな海』：脚本分析、振付分析
6) 平田オリザ作・演出オペラ『静かな海』：舞台装置分析、劇評分析
7) 『静かな海』、森鴎外『舞姫』、能楽『隅田川』の間テキスト性：
8) ワーグナー作曲・ハイナー・ミュラー演出『トリスタンとイゾルデ』の演出分析：第一幕、第二幕
9) ワーグナー作曲・ハイナー・ミュラー演出『トリスタンとイゾルデ』の演出分析：第三幕
10) ワーグナー作曲・ハイナー・ミュラー演出『トリスタンとイゾルデ』におけるミュラーの歴史観、女性観
11) クリストフ・シュリンゲンジーフ演出『Mea Culpa（私の贖罪）』：脚本分析、振付分析
12) クリストフ・シュリンゲンジーフ演出『Mea Culpa（私の贖罪）』：舞台装置分析、劇評分析
13) 現代の日本とドイツ語圏の舞台芸術交流：ドイツ統一と福島原発事故の影響
14) 授業のまとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	50%	設問に対応した解答の達成度
レポート	30%	ショートレポートの課題に対する記述内容の充実度
平常点	20%	授業課題全体に対する授業態度
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

必要に応じてコピーをmanaba上で提示ないし配布する
参考文献：

1）ハンス＝ティース・レーマン著『ポストドラマ演劇』　同学社
2）エリカ・フィッシャー＝リヒテ著：『演劇学へのいざない』　国書刊行会

オフィスアワー

その他特記事項

4回以上欠席した場合の成績は不可となります。

参考URL

備考

[1E0021C85301]

科目名: ドイツ語学Ⅰ(2)(4):演習 **担当教員: 藤縄 康弘**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 金2 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C853,LE-LG2-C8

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:49 更新者: AC7671 更新日時: 2024-01-05 17:11:15

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

(1) ドイツ語の物語文を日本語に翻訳する実習を行います。
(2) 受講者は、毎回、指定された範囲をあらかじめ日本語に「翻訳」し（つまり、単なる直訳ではなく、日本語として自然に読める文章表現を工夫し）、提出してください（提出方法の詳細は授業で指示）。
(3) 授業時間では、解釈の難しかったところを中心に内容を確認するだけでなく、提出された和訳に基づきながら翻訳のポイントとなる諸点について議論します。
(4) 授業後は各自、自分の翻訳を見直し、再度提出してもらいます。
(5) 翻訳そのもののほか、作品解釈についても考察します。

科目目的

・ドイツ語のテクスト（文章）の構成や表現としてのまとまりを言語学的な視点から分析する手法を身につける
・ドイツ語のテクスト（文章）の構成上の特色を知ることで、自身のドイツ語および日本語による表現力の向上につなげる姿勢を身につける

到達目標

科目目的を参照

授業計画と内容

1. オリエンテーション
2. 線状性と文章の構成
3. 主題の選択 – 理論編
4. 主題の選択 – 第三者的語りの場合
5. 主題の選択 – 体験的語りの場合
6. 態のはたらき – 理論編
7. 態のはたらき – 第三者的語りの場合
8. 態のはたらき – 体験的語りの場合
9. 時制のはたらき – 理論編
10. 時制のはたらき – 第三者的語りの場合
11. 時制のはたらき – 体験的語りの場合
12. 間接話法 – 理論編
13. 間接話法 – 第三者的語りの場合
14. 間接話法 – 体験的語りの場合

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

概要 (2)(4) 参照。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験　　0%
レポート　20%　概要（5）参照
平常点　　40%　概要（2)(3）参照
その他　　40%　翻訳成果：概要（4）参照

成績評価の方法・基準（備考）

※欠席が開講回数の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する

オフィスアワー

その他特記事項

・本授業に加えて、「ドイツ語学II（2)(4)：演習」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

担当教員の HP:
http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/fujinawa/

備考

[1E0021C85501]

科目名: ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習 **担当教員: 林 明子**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 水3 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C855,LE-LG2-C8

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:58:50 更新者: AA0530 更新日時: 2024-01-09 17:14:47

履修条件・関連科目等

⑴「独文基礎演習⑴」「ドイツ語学I⑴⑶：講義」「ドイツ語学I⑵⑷：演習」もしくは国語学、英語学を含む言語学分野の授業を履修済みで、言語学の基礎を十分身につけた学生は、後期のみの履修でも差し支えないが、本授業は、基本的に前期開設の「ドイツ語学II ⑴⑶：講義」が履修済みであることを前提としている。
⑵ 本授業に加えて「ドイツ語学I⑵⑷：演習」も合わせて受講することが望ましい。

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

言語学の魅力の一つとして、言語事実の観察・分析を通して、背景にある社会や文化に客観的に迫ることがあげられます。そのためには、専門用語や方法論を整理し、具体的な言語資料を分析して、その結果を意味づけるプロセスを体験することが有効です。授業では、実証的な先行研究の講読を通して、調査対象となる問題の発見、データ収集、データの分析方法を学びます。前期開設の「ドイツ語学Ⅱ⑴⑶：講義」に引き続き、今年度は語用論が中心にはなりますが、後期では、より幅広くドイツの社会・歴史・メディアとの関連の中でドイツ語の資料を観察・分析したさまざまな論文を取り上げます。担当論文を決め、その内容を発表・議論します。口頭発表を経て、学期末にミニ論文の形にまとめたレポートを提出します。

科目目的

具体的な言語資料の分析結果に基づいて、言語の構造や機能について考察する能力を養うことが目的です。将来、どの分野で卒業論文や卒業研究を執筆することになっても、言語事実を観察・分析することによって、背景にある社会や文化に客観的に迫れる力を身に付けることを目指しています。

到達目標

本授業では、前期に引き続き語用論分野に焦点を当てると同時に、社会言語学分野の先行研究も扱います。実証的な先行研究に倣いながら、ドイツ語で書かれたデータを実際に分析することを追体験することによって、生データを分析できる方法論を身に付けます。具体的な言語資料を、方法論に則って分析した客観的な結果に基づいて、言語運用や背景社会についても考察・議論する力を身に付けます。

授業計画と内容

＊ 担当する実証的な文献を決めて、グループで報告します。
＊ 取り上げる文献については、授業の中で履修者の希望を聞きながら最終的に決定します。それにより、以下に予定するテーマおよび文献の暫定的な順番は、大きく変わる可能性があります（履修者数も関係します）。

(1) オリエンテーション：言語学分野の実証的研究・分析対象資料について
(2) ジャーナリズムのテクスト
(3) 新聞記事のテクスト言語学的分析：言い換えに注目して
(4) 新聞記事の批判的談話分析：「移民」をテーマに
(5) 会話分析と語用論
(7) ドイツ語母語話者・非母語話者間の会話分析
(8) ドイツ語の表現：呼称・依頼・陳謝を中心に
(9) Politolinguistik
(10) 政治家の演説の分析：ヒトラー演説を例に
(11) 多言語併用の社会
(12) 多言語併用社会と教育：ルクセンブルク大公国の場合
(13) 多言語併用社会と言語継承：アルザス地方の場合
(14) 総括：期末レポート（ミニ論文）の執筆に向けて

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

＊授業中の発表には、必ずハンドアウト等の配布資料を用意してください。
＊発表に先立ち、ハンドアウトのたたき台を用意して事前に相談することを勧めます。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、論文形式の文章の中で正確に用いることができるか、また基本的な概念や方法論を用いて、実際にデータを分析できるようになったかを評価の対象とします。正確な引用と出典表記も重視します。
平常点	40%	発表準備および発表を通した課題への取り組み、授業への貢献度を評価します。ハンドアウト作成にあたっても、正確な引用と出典表記には十分注意を払ってください。「今日のひとこと」などを通した授業内の「小さな気づき」も重視します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

＊ 原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

＊ 課題等に対する授業中のコメント内容は、期末レポートやその後の学びに反映させてください。

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
✔ ディスカッション、ディベート
グループワーク
✔ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

manabaのアンケート機能を用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進めます。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

＊ 履修者の決定を見て、実際に授業で扱う論文名のリストを配布します。 以下は、関連する参考文献例です、

＜参考文献＞
岡本能里子・佐藤彰・竹野谷みゆき編（2008）『メディアとことば３　社会を構築することば』ひつじ書房
加藤重広・滝浦真人編（2016）『語用論研究法ガイドブック』ひつじ書房
木村護郎クリストフ、平高史也編（2017）『多言語主義社会に向けて』くろしお出版

高田博行（2014）『ヒトラー演説　－熱狂の真実－』中公新書
山下仁・渡辺学・高田博行編（2011）『言語意識と社会　-ドイツの視点・日本の視点-』三元社
渡辺学・山下仁編（2014）『講座ドイツ言語学　第３巻　ドイツ語の社会語用論』ひつじ書房

＜辞典／事典類＞
＊専門の辞典類は、専門用語を中心に予・復習の役に立ちます。
亀井孝他編著（1996）『言語学大辞典　第６巻　術語編』三省堂
斎藤純男・田口善久・西村義樹編（2015）『明解言語学辞典』三省堂
ドイツ言語学辞典編集委員会編（編集主幹：川島淳夫）（1994）『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店
Bußmann H. (Hrsg.) (2008) Lexikon der Sprachwissenschaft. Stuttgart: Alfred Kröner Verlag.
Lewandowski, Th. (Hrsg.) (1990) Linguistisches Wörterbuch. 5., überarbeitete Aufl. Heidelberg, Wiesbaden: Quelle & Meyer

＊その他の参考文献は、テーマに応じて授業中に紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

＊どの回もドイツ語の具体例の詳細な分析を扱います。能動的かつ積極的な授業態度が求められ、「聞いているだけ」の時間はありません。
＊連絡方法：オフィスアワーを含め、まずはmanabaまたはメールでご連絡ください。メールアドレスは、授業開始後、履修者にお知らせします。

参考URL

備考